

主体性

私は自ら課題を見つけ、納得するまで探究します。高校2年で数学Cの楕円を学んだ際、「楕円体にも標準形があるのでは」と疑問を抱き、自ら調べて直楕円体・扁平楕円体・三軸不等楕円体の存在を知りました。三軸不等楕円体の標準形は自力では導けませんでした。情報機器を活用し教師に質問して理解を深めました。この経験を通じ、未知の課題に挑戦する意欲と学びを広げる力を得ました。貴学でさらに知識と技術を高め、主体性をもって社会に貢献したいです。(270字ぐらい?)

多様性

祖父母の家で町内放送が流れた際、祖母が聞き取れないことがありました。私自身は聞こえましたが、過去に言葉の聞き取りが追いつかなかった経験を重ね合わせることで、祖母の不便さを実感できました。

何とか不便を取り除いてあげたいと、私は〇〇△△……を試みました。

この体験から、他者の視点に立つことは問題をより鮮明に捉えられると学びました。同時に、理解を深めるには多様な経験が必要であるとも感じました。貴学では様々な人々と交流し、成功や失敗を共有する中で多様な視点を磨き、迅速に対応できる技術者へと成長したいと考えています。(296字)

協働性

高校最後のマラソン大会で上位を目指し仲間と練習を重ねました。知識が乏しく、最初は走り込みだけでしたが、ネットや陸上部の友人から走り方を学び、個々に合った走り方やラストスパートの工夫を取り入れ、互いの走り进行分析し合いました。その結果、練習では10位以内に入ることができました。しかし本番では体調を崩してリタイア、計画性とリスク管理の重要性を痛感しました。協働には、目標の共有と柔軟な対応が欠かせません。チームの目標を明確にし、仲間と協力して取り組まなければなりません。大学では多様な価値観を受け入れ、仲間と共に最適な解決策を創出し、社会に貢献できる技術者を目指します。(298字)

今をさかのぼること110余年、明治42年(1909年)、北九州・戸畑の地(現在の北九州市戸畑区)に九州工業大学の前身である私立明治専門学校が開校しました。戸畑からほど近い八幡の地には明治34年(1901年)に官営八幡製鉄所が設置され、日本の近代化を殖産興業から支えた重要な産業拠点となりました。八幡製鉄所を含む北部九州を中心に現存する歴史的な産業建造物群は2015年に「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録され、その歴史的価値を世界に認められたことは記憶に新しいところです。これらの産業施設に魂を込めるべく、日本における技術者(エンジニア)の養成を旗印として、当時の高等教育の巨人、山川健次郎博士を初代総裁として招き、安川敬一郎および松本健次郎の巨額の寄付のもと設立されたのが明治専門学校です。このときに示されたのが「技術に堪能なる士君子」の養成、すなわち技術に精通するとともに、道義心のある人格者を養成することを目的に、単に学問・技術を授けるのではなく、人間形成にも重点を置いた教育を行うという、建学の精神です。本学はその設置形態を私立から官立、そして国立大学へと変えつつも、この建学の精神を脈々と受け継ぎ、明治、大正、昭和、平成を経て、令和の現在に至るまで、日本の近代化、工業化、産業の発展に貢献する、7万人を超える優れた技術者を輩出し続けてきました。また、昭和61年(1986年)には、情報通信革命が始まる中、日本の情報通信技術を支える技術者を輩出するために、福岡県飯塚市に情報工学部を設置しました。平成12年(2000年)には、生命(バイオ)のもつ特性を工学的に活用し21世紀を支える技術を創出する技術者を輩出するため、北九州市若松区の学研都市内に生命体工学研究科を設置しました。九州工業大学は、Society5.0を目指して急速に社会が進展する中で、工学・情報工学・生命体工学の各分野で新たな知識と技術を生み出し続ける研究力を背景としながら、常に日本の産業を支え、世界で活躍できる技術者を育てる学びの場を提供し続けています。そして多くの卒業生が企業の中核技術者や経営者として社会を支え、未来を切り拓いています。九州工業大学は、「技術に堪能なる士君子」の養成という建学の精神のもと、幅広い理工学分野における教育と研究を通して人類・社会に貢献することを基本理念としています。この理念に則り、「ものづくり」と「情報」における新しい技術と科学の発展のため、深い専門性と幅広い知識・教養、多様な人々と協働するために必要なコミュニケーション力および技術者として必要な倫理観を備えた人材を育成し、グローバル社会で活躍できる優れた技術者(グローバルエンジニア)としての能力を発展・向上させることを使命としています。そこで、本学が入学者に期待することは以下のとおりです。(1) 理工学分野の学修において基盤となる、数学、理科(物理、化学、生物等)、情報などの理数系教科・科目に高い学力を持ち、各高等学校等が定める教育課程に従い全ての教科・科目の基礎学力を持っていること。(2) 理工系人材として成長する強い意志と、「社会をより良くする何かを残したい、社会の問題を解決したい」という夢をもち続け、自らそのために行動できること。(3) 国際化に対応できるコミュニケーション力の修得や、様々な文化を理解し受容することに前向きであること。(4) 自律的な学びから広い視野を持ち、多様な人々と協働することを通して、創意・発見する知の探究を持続する必要性を理解していること。本学は、入学者の選抜にあたり、多様な選抜方法で、(1)～(4)の素養や能力を多面的・総合的に評価します。いずれの選抜方法においても、調査書等を用いて(1)の高等学校段階までの履修状況を確認します。加えて、一般選抜では、大学入学共通テスト、個別学力検査により、問題解決力を問うため、その基盤となる主に(1)の基礎学力と理数系の思考力・判断力・表現力等を評価します。一方、学校推薦型選抜、総合型選抜及び私費外国人留学生選抜では、本学での学修に対応できる基礎学力を問うとともに、技術者としての適性や主体性、多様な人々と協働する姿勢なども考慮し、(2)、(3)、(4)についても多面的に資質や能力を評価します。

主体性

私は自ら課題を見つけ自信が納得するまで考えます。私は高校2年生の数学Cで楕円の標準形を学び、楕円体にも標準形があるのではと考え、積極的に取り組みました。自ら調べた結果、 a, b, c のうち2つが等しい場合には直楕円体と扁平楕円体の2種類が存在し、また a, b, c が全て異なる三軸不等楕円体になることに気づきました。しかし三軸不等楕円体の標準形は自力で求めるのは困難で、情報機器や教師に質問し学びました。この経験を通じ、自分にはまだ学びが必要であると感じる一方、細かな着眼点も備えてると自負しています。貴学では技術や知識を学び自身の能力を更に活かすと同時に、正確な解決策を出し社会に貢献したいと考えています。

(300字)

多様性

私は他者の認識をイメージし、問題を知覚することができます。私は祖父母の家にいる際、町内放送が流れて祖母が聞こえない時がありました。私の耳は悪くないので最初祖母の言うことがわかりませんでした。しかし、似たような点で私は言葉の聞き取りに理解が追いつかない経験があるので重ねてイメージすると祖母の聞き取れない不便さがよく理解できました。この経験で、他者の視点から見るとその問題がより鮮明に認識できることがわかりました。しかし同時にイメージするために実際自分が経験する必要性もあると考えます。私は貴学で多くの人と関わり、そこで成功や失敗を学んで世界の目線をイメージし素早い対応を行いたいと考えています。

(300字)

協働性

私はチームが何に取り組むべきか仲間に提示できます。私は高校最後のマラソン大会で上位を目指す仲間と一緒に練習に励みました。私たちは専門知識が少なく、初めはひたすら走ることから始めましたが、情報機器や陸上部から学び、個人に合う走りの強弱やラストスパートのかけ具合を放課後の練習に実施し、仲間から見た個々の走りの話し合いを行ってきました。練習では10位以内に入りましたが、体調管理に失敗しリタイアも経験。このことからチームでリスクヘッジの重要性を実感しました。今後は目標達成の計画性と、予測不能な状況にも対策案を出し、大学では多様な価値観を取り入れながら最適なイノベーションの創出を行って行きたいです。(299字)